

可能会だより

10月17日に神奈川県横浜市で全国女 性消防操法大会が開催され、本市の女性 消防団が宮崎県代表として出場しまし た。惜しくも入賞は逃しましたが、本番 では日々の厳しい訓練の成果を見事披 露されました。

これからも女性ならではの視点で防 火啓発や応急手当の指導・普及等への活 躍が期待されます。







※全国大会に向け、早朝や夕方に三納球場の駐車場等で操法訓練を行いました。

主 意請委 掲 載 見・

政

いては採択としました。また、市長提出議び議員提出議案を原案可決とし、陳情につ 年度決算に係る十二件を認定としました。 案のうち、平成二十四年度決算に係る十一 その結果、市長提出議案のうち十七件及 治姿勢、農業行政、 般質問では七名の議員が登壇し、 お、継続審査となっていた平成二十二 ついては、 を行いました。 福祉行政、 継続審査としました。 地域づくり等に関する 教育行政、

議案二十八件、報告案件五件、議に招集。十月一日までの会期で、

議員提出登

件について審査を行いまし

平成二十五年第四

回定例会は

九月二

議結果

で審義された義案の既要とはま)第四回定例会 九月二日~十月一日 で審議された議案の概要と結果 全会一致で可決

関 得たことに伴い 部 体 おうとするもの) 科学大臣より財産処分の承認を 型小中一貫教育校へ移行し、文 銀上小学校及び銀鏡中学校が一 する条例の一部改正につい 西 都 市立学校 0 設 所 要の整 置 及び 備を行 管 理 て に

関 係

条

例

七条第 条例を制定しようとするもの)理する審議機関を設置するため、 \mathcal{O} 条第一項各号に掲げる事務を処 制 西 定に 都 の制 市 ついて(子ども・子育て 子ども 定に伴 子育て会議 い、同法第七十 条例

|進を図るため、所要の整備を行一部改正について(基金の利用||丸山国際交流資金貸付基金条例

●丸山国際交流資が延滞金徴収条の一部改正について(地方税にの)が還付加算金の割にの力が場所をで流資 理 び還付加算金の割合の特例に準じ、ついて(地方税における延滞金及び延滞金徴収条例等の一部改正に●税外収入金に係る督促手数料及 西都· 施設等の構造に関する基準を定 要の整備を行おうとするもの) 市準用 等構造令の一部 河川に設ける河川管 改正につい おうとする いて (河 改正に

予 算 関 係

六千五百-予● 正 算平 成二 補 農林水産業費など総額五 正(第六号)について(総 十五 十三万五 年 度 西 千円の 都市 増額: 般会計 補億

●平成二十五年度西都市国民健康

正億に事代の業 平 成二 百 7 別会計予算補正(第二号) 兀 十五 十四万四千円の増額補(基金積立金など総額一 年度西都· 市介護保 険

に者●つ医平 付金など総額百八十 -万六千

> 補 正

駅予● アル 西 算平増 -成二十五. [地区商店街アーケードリニュ/補正(第七号)について(妻-成二十五年度西都市一般会計 事業補助金として、 五千円 /を増 増額補

西都医師会病院清 ■平成二十五年度 予算補正(第八号 正) 衛 を 四都医師会病院清算支援金として、算補正(第八号)にてレマ、-J増額補 |生費に三千二百三十五万八千 正 (第八号) について (旧十五年度西都市一般会計 円

決 算 関 係

■平成二十二年度西都市歳入歳出決算について 亚 成 十二年 度 西 都 市 般 会計

保険 0 **\ |事業特別会計歳入歳出決算に |成二十二年度西都市国民健康 7

事業特別会計 て 平成二十二 歳年 ※入歳 度 西 風出決算につい四都市簡易水道

■平成二十二年度西都市老人保健業特別会計歳入歳出決算について 業 |平成二十二年度西都市農業集落||別会計歳入歳出決算について |平成二十二年度西都市営住宅事<|特別会計歳入歳出決算について 平 成二 十二年 -度西都市老人保健 度 西 [都市下水道 事

> かれて が水事 水事業特別会計歳入歳出決算に

事業特別会計歳入歳出決算につい■平成二十二年度西都市介護保険 て

平成二十二年度西都市

西米良村

軍審査会特別会計歳入歳出決算に■平成二十二年度西都児湯障害認 決算について 介護認定審査会特別会計歳入歳出

いて ついて 者医療特別会計歳入歳出決算に■平成二十二年度西都市後期高3 つ齢

会計決算について■平成二十二年度 歳入歳出決算につい ▲平成二十四年度西都市 て - 度西都市 て 水道 般 会計 事業

ついて 保険事業特別会計歳入歳出決算に▲平成二十四年度西都市国民健康

▲平成二十四年度西都市農業集落業特別会計歳入歳出決算について 業特別会計歳入歳出決算について▲平成二十四年度西都市下水道事 事業特別会計歳入歳出決算につい て ▲平成二十四年度西都市簡易水? 道

かいて 排水事業特別会計 平成 二 十 应 年度西都市介護保険

歳

入歳出決算に

特別会計 歳入歳出決算に 0 11

特別会計 長西都市 一 歳 西 入炭良 出村

西 歳 入歳 都 歳児出湯 設障害認

出決算に記後期高質 つ齢

▲ 平 成二十四 決算につい [年度西 7 都 市 水 道 事 業

> 償貸付しようとするもの 矢 療 れ 福 ることに伴 祉 専門学校 \mathcal{O} 運 市 営 有 法 地人が 無変

更 に 求めようとするもの) て に無償貸付する財産の(市が社会福祉法人 することにつき、 議 決 0 変更を求めることに 公人日章福祉会のることについ 議 の内容等を変 決の 変更を

ついて、議会の議決を求めいて(未処分利益剰余金の気会計未処分利益剰余金の処金計を受ける。 決を求めようと の処分につい水道事業 业の処分に

議 員 提 出議 案

そ

()

他

●森林吸収源対策 が策に関する地対策に関する地域である。 の意見書(案) 意 ● 見 地 →森林吸収(X) 方 税 (案) 財 源 (案) \mathcal{O} \mathcal{O} 提出につい 地方の財源な対策及び地域 充 0) 実 提 確 핊 保 が確保の. いて を求 0 11 め て た化 る

伺

11

()

た

、て工事請な

について工事請負契約を締結しよいて(指名競争入札に付した工事建築主体工事請負契約の締結につ●妻南小学校改築(一期三工区)

医 ●

価祉専門学校の運営法歴の無償譲渡について

育地を無る法人が変に、「宮崎

療

財産

入され

しようとするも ることに伴

0

市

無

に質貸付に

0

1

7

(宮

崎

約に結

付 に 無 西

した工事に

つい

て工事請

っい

て

を締結しようとするもの)

ル

設 市

整備 (条件付

工事

請

工事請負契 般競争入札 弱換急デジタ

般

防

本

防

登壇し、 九月十七 市政全般にわたって質問を

> 教育・子育て、 急医療について 自然エネルギ



政友会 橋口 登志郎

育方針について伺いた 1 新 就任にあたり 教育長 0 教

間

問② スポーツの取組みについて文化振興を取り組んでいきたい。育の分野、文化財、スポーツ分野、の成果を出したい。同時に社会教 体罰の防止、教職員の資質実に取り組む」、つまり、いな教育課題と西都の懸案事 一貫教育での英語教育、さいと学りたい。三、「西都教育ブランド」、 学力向上、 確 「実に引き継ぐ」 。二、「今日的」 一、「西都の教育財産・歴史を 学校耐震化の推進を図立、教職員の資質向上、 英語教育、さいと学 同時に社会教 懸案事項に V じめ て

つ問3 いながら 何自 童答 ② 自然エネルギーの取組みにながら研究を進めていきたい。 生 生徒の育なの て伺 くをまかなうと推測される。 数年で太陽 スポー いたい。 スポーツ指導者の育成にはスポーツ 管内 \mathcal{O} バ ラン の年 光 発 間 ス 電 総電力の一 0 -ツは大切のとれた児 よる発電 取組みに 話を伺

最優先に取り組む政策の一つであ性化につながる大きな要因であり、

構築と地域の活

のもとで取りに住民などが、E

同

じ目標、

共通理解 師

むための努力を

充実に向け、

公療の

再生と地

域医療

 \mathcal{O}

間④ 西都児湯医療センター検討に値するものだと思う。 し、その中でバイオマス、小水力し、その中でバイオマス、小水力も、その他の自然エネルギーは「新 肖され、例えば小型風力など十分技術の進歩により従来の欠点が解風力など検討していきたい。また 市長の救急医療に対する決意) 西都児湯医療センターの現 力策新工

隊新田原基地から週一回支援を受 について医師会から提出された最 について医師会から提出された最 について医師会から提出された最 を報告書の結果を真摯に受け止め、 終報告書の結果を真摯に受け止め、 が図られており、来春医師の確保 が図られており、来春医師の確保 が図られており、来春医師の確保 が図られており、来春医師の確保 が図られており、来春医師の確保 が図られており、来春医師の確保 隊新田原基地による対応、答 内科診療 に状って、 安心安全な環境の構築と地域の活人口増加の条件のひとつとして、と判断した。医療の充実は、定位 合 内科診療は週二日について伺いたい。 夜間外来に航空自然は週二回非常勤医 衛師

3

凸 負担 [都医 を妥当と判断 1師会病院の閉院に伴



日本共産党 保夫 狩野

を市長に提出した。 と集計・確定した結 を集計・確定した を集計・確定した を集計・確定した を集計・確定した がれるべき行政的、 たっと考える。この を同いたことに対する を同いたことに対する 招いたことに対する責任ある見解 を市長に提出した。報告書では、 旧西都医師会病院の窓口請求と収 日でいる。今回に至る経緯には、問 を集計・確定した結果が報告され でいる。今回に至る経緯には、問 を集計・確定した結果が報告され でいる。今回に至る経緯には、問 かれるべき行政的、政治的責任が あると考える。このような事態を 知れるべき行政的、政治的責任が あると考える。このような事態を とれるできる。このような事態を かれるべき行政的、政治的責任が あると考える。このような事態を 間 西 都 市 西 会師 会 院は 八 月

ことを考えると、 やこらが委答 このことで医師会と りれていない状況が 繰り返され、当事 安員会において二年 地 け 窓口差 域 題の解決に向けて対応しなけり返され、当事者の理解が得いない状況が続いている。ていない状況が続いている。できえると、その責任を重くな医療に与える影響が大きいな医療に与える影響が大きいは、当事者の理解が得会において二年以上調査検証の解決に向けて対応しなける。 と考える。

> とそれ ことは さ る 査 結果に |師会から提出されたこと。 れ し 7 いる。 を 困 裏付 につ 2 市 許さ 求 討 それだけ ける資料を 額 委 \mathcal{O} との差 れない る」とし 私 的 いあとい 諮 と考える。 と考える。 と考える。 と考える。 額 を 問 立められるこの最終報 六百 た 断 機 定的 関 七 すに で 解調明查 万

はにさでめ期の入を答の告医釈 「受れあ、間突額基か書師や 旧けてり対に合やに調、を会見 って 告書をどのように受け止められる のか、責任ある見解を伺いたい。 の突合などが行われている。対象 の突合などが行われている。対象 の突合などが行われている。対象 の突合などが行われている。対象 の変合などが行われている。対象 の変合などが行われている。対象 の変合などが行われている。対象 をすることが妥当であ 証 したところである。 に 要し 生じた債 西 止 いるので、その結 め、 た費用を除 都 医師会病院 務超過 公的支援に当たって き 額 の閉院に対 から る 果を真摯 と判 的 調 負 查 断担 検 伴

お、 用 百 差し引いた三 l た金 万 的 六千円から、 負 担とし 額 は、 て妥当 債務 弁 超 護 過 で 額あ

会から提出され

体型小中学校校舎の将来像に



政憲

如水会 恒吉

ラミューロの毎月二十日ここ、の毎月二十日ここ、のかては、「県内一斉消毒りのがては、家畜防疫員による定期問していては、家畜防疫員による定期問している。不十分な農家に可している。不十分な農家に可している。不十分な農家に可している。のもりによる定期による定期による定期による定期による定期による定期による定期によるにによる を図っていく。機関と一丸となって、 答 を行なっており、これからも関係日」の毎月二十日に広報車で啓発 お継 1 続さ 毒 槽 蹄 7 0 疫 いるかり 設置や石 疫 伺 いた 灰 防 は、 疫の 0 今も 散 徹底 布 な

校整の備 問 ② てま 像について伺いたい 度 耐 耐 基本方針に基づいて、 震化完了をめざすという 文部科学省の、 日も早 教育施 震補 ŋ 体型小中学校校 た 早い児童 画 「などに · 児童 環 そしてそ 時施工 境 平成二十: \hat{O} · 生 0 確 一徒の 舎の $\bar{\mathcal{O}}$ で完了さ 保 次に、 小 7 検討 一努め 安全 将 中施 七 学設 年 来

> ことなく円滑に行なわれるために な問 (3) 個 について何 生委 いた 員 は 毎都月於 1 る が 会

医療センター



新風会 兼松 道男

により患者数およ 状況においてもp として、 況 し従 ŋ 本問 を伺 て来の 西 年 ① な医 11 月 西 たい 療提供 救急医療な 以 V) V) 都 二次医 状 況 であ制 ょ 内 医 をは 科 療 び 勤 り、 が十 医 診 巻 医 セ **| 一次の状態が一分に機能が一分に機能を変の体診等** の師 中 タ 不 1 核 足 によ 施 で 設

なの年約問つ四年計お前者答 数では入院なる常勤医師の ている。 十五 · 度 比 で b, 年度比 億四千一 また、 パー 較 |較で約| で約 ・セント 医業収 六百 およびの不足が 億二千 万円 程 7円であり、前以入は六月末累 余り 度 等 の利用 般に 減外 ょ 少とな 少して 来とも り、 余 ŋ 患

兀 +患者 とな で四 Ì 度 つって セ ント、 \mathcal{O} \mathcal{O} 経営収支見 いるが、こ 五. 減 て が 医前 11 る 業年 セ 収度 \mathcal{O}

と検討したい。 と検討したい。 が 残ら が ろ ま 応で ることが 金 千末さ \mathcal{O} 終 移 \mathcal{O} ħ 万 中に 次救 をし きると聞い 1 七 的 現 て 、救急の助、、予想され、、 いる一 からい -スで今. に で 月 には、 は あ ま とは、 \$. 9. 予に おり、 可 現 で 億五千 現在、 金) 能 在助 0) ので返済期限の猶予に関する要望書が提本年九月末の返済 ている。 性 0 実 毎 があ 実質的には現 預 在 0 金ベー 月赤字 方円 返済 等を含め 今後入ってく \mathcal{O} 高 よると、 収 をもとに、 る。 支予 診 は この貸付な 類限を対し L 約 医療セ ・スで が 体 測 て、 生じ 制 が 金 金 猶 現 対 示 現

どう カ 伺 ているようだが、.以降も従来の雇用: 11 て 業 収入 ŧ 雇用の ター 継減 少が今のよ 続 \mathcal{O} 心となる 用職 患者数 員 具は、 のま か ま の継本

専を を す 減 前 ることとな 医 として 療 セ レンター 合、 が いる中で、 従 来 特に 7 \mathcal{O} を の雇用体制を継じいことなどに 再 看 建 仮に 護 すること 師 等 職 \mathcal{O} 員

『食』 創生都市



政友会 黒木 吉彦

を 11 伺 1 Vi 7 食 食 \mathcal{O} 拠 点づ 創 生 くり 都 市 0 0 進 取 捗 組 状 2 況

つ問

業や 本の計道 おい ところであ 郊 答 L よる会議を開き建 たい。 外 道 \mathcal{O} 商 て検討し 画策定の \mathcal{O} 建 I 設 駅 中 また、 一業の 0 間 場 新に 事 地)関係団: 点と 準 例 てい えび -備等も進 などを参 0 . る。 設 郊 11 外 候 \mathcal{O} 体 7 市 補 \mathcal{O} 九 0 は や都農町 述めてい 多考に、 代 月 地 市 地を決定 ||表者に 仲に 力 街 所 地 基 農 る

い締に 問 2 至った経緯 宮大農学部との だっつ 11 連 携協 て 伺 定 11 た \mathcal{O}

答 できたことか 診が 、農学部として単 回 今ま が 西 が初め あ 都 ŋ で 市 先 7 締 は 結に 5 で 駆 基 あ 的 幹 産 ŋ 独 至 宮大農学部 業が 農業に取 0 0 協 農業 定 部 ま 間 締 た宮 かんらん で 結 協 は あ

> 問い いという 方が 実効 性、 が あ 実 利 性 を 確 保 易

宮大 八農学部 の活 動 \mathcal{O} 11 連 携協 7 伺 定 に

問 ④ 業化に 害対策、 どのような視点で施設、 などに取組むことを考えて 地 受入や農業者、 行 められるのか伺いた と考えているが、 研修など人材育成にも取組みた \mathcal{O} 分析、 から助言を頂 マ、 委員会のなかで具体 また農学部学生の農業研修 今後 .関する研究などが考えら 例えば農産: 食の拠点づくりに 農商工連携による六次産 亜熱帯果樹 \mathcal{O} 活 動 き、 市職員の大学で は、 当面 農学部 調査研究委託 間は専門的品 研 機 的 づくりを進 究 な連 能 いる。 性成 て、 見 獣 いののれ 分

市答 自 する場とし、 ツや健立 7 然など、 光客に来て頂 で生産している農畜産物や加 頂く場とし 料理などの食をは 食の拠点整備について 康、 西 都 歴史や文化、 市 市 整備 外 \mathcal{O} 魅力をアピー からも多くの 交流や消費を じめ、 を考えてい 豊か、 は、 ス ポエ な 本

4

•

で

小 中一

標人口と地

づくり及び



新緑会 寛文

太田

立あし 間 立ち上げては、 のるため特化し 発祥地で 工施設として重 進持が で になり、何らかの支西都が市内の収穫作設として重要であり、エイフーズは、畑作工が、畑作 元解を伺 る 係機 口厳西 し都 いたい。 関団体的 エい産 ク状 7 ト況 ン を 等

答 諸問題について、 を連携して課題解決に解 を連携して課題解決に解 をがだけでなく、農家やな をがだけでなく、農家やな をがだけでなく、農家やな をがたけでなく、農家やな なる取り組みも必要と思うがな とことになり、ためには、か をがいる。更に関係な をがたけでなく、農家やな なるなど比較的小な なるなど比較的小な なるなど比較的小な なるなどといる。 を対している。 をがしる。 を対している。 を対している。 をがしる。 をがし 関する機械は、リー その他の支援につい を 型の六次産業化を が見解を伺い

支援制度を前 必要であるないのであるないのであるない。 向きに た組女性組

> 遊ぶなどとなってい 環児答いあ三問設生が遊聞緒 境童。り・⑤定の見ぶかに の生今、六、なりらなれな 徒共答 指 通 題 リー ?など上級生の思いやる心など?れ、昼休みなど一緒になって!なってよかった」という声も! 導 理 小を れる。 解が • 中 いる。児 ダー 進 育 路指 ·図 ら 校全 -性を発 性を発揮させる場の課題としては、六年 ま納地 導も 定量生徒 員 充実したも \mathcal{O} 区 からも「一 指 導収 状 況 • と体

の小中学校の足などがある。 パー 後の対策について伺いーセントと県内最下位甲学校の耐震化率は云 い位六 で十

ついて伺いたい。日の減少が激しい年間で約一万五百日は、同年の約六

農政 少。

対策 農家

減少が激しいので 関で約一万五百人減少

百人で三

·を 目 指したい。 確徒後 保の名は、 たのため、一日も早安全・安心な教育: 最 重 要課 題 とし て、 い施 設

ように活動財源も含めばづくり協議会が事業活

発等に 推進

ŋ 商

む •

•

取新

組品

\ \ \



一体型一貫教育後、初めて開催 された三財小中学校の運動会

西興会

減少している。料三万二千人で は、 | 方で農家 十平 四郎 北岡 成 车 間

都

 \mathcal{O}

そ動間な新答に人十人五二問のし②ど生 つ口年口千年① あや 対産食いの間は人に の人口減少、高齢化、十年後には問③ 国、地方の財政状況、地方と協議し、交付金化を検討したい。 と 既存の補助事業を見直し、可答 既存の補助事業を見直し、可 重れ様団の問協能答 要ならな世 しやすいように活 ・ 地域づくり協業 ・ 産技術等の開発等 ・ 産技術等の開発等 世 な政策になってくる。いち地域づくりは、地方な社会現象が現れてく世代が後期高齢者に、 現れてくる。 方 になり、 地行 が域政 あ力の



一つ「ライオン教育」の場面

で取り入れられるよう検討してま徳で石井十次の生き方など小学校答 今後、福祉に関する学習や道 たな公共の ・手とな 0

には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 にいる教育委員会があるが、本市での公表のあり方を伺いたい。 での公表のあり方を伺いたい。 での公表のあり方を伺いたい。 での公表のあり方を伺いたい。 での公表のあり方を伺いたい。 での公表のあり方を伺いたい。 での公表のあり方を伺いたい。 での公表のあり方を同いたい。 研究を進め 今後さらなる充実を求めるた いてまい りた

石井十次の特徴ある教育方法の

文教厚生常任委員

 $\mathcal{O} \mathcal{O} \mathcal{O}$ 諮問に応じ、 制定について。本条例は、市長西都市子ども・子育て会議条例 った議案の て文教厚生常任 Ŧ. 概要を 調 査・審議する機 委員会で審 報告します。 口 定例会に 査

○西都市立学校の設置及び管理に○大山国際交流資金貸付基金条例の一部改正について。今回の改正の一部改正について。今回の改正の一部改正について。今回の改正が図られました。

○のを育今関 一回の改正は、関する条例の一部 です。 銀鏡中学: \mathcal{O} 実施により銀上小学校の位置の改正は、一体型小中一貫教 校 0 部改正につい 位置に変更するも て。

約五い建 築主体工事請: 千 手方 小 費税を含む契約 七百六十二万五千円。 は、 資契約 築 有 $\widehat{1}$ 限会社 の締結に 期3工区) の金 大 木 区 額 産契は 0

> 予算補 ○平成二-す。 医減セ∇療圧ン山 制 作▽ 増 譲 係 〇 業 療講 る市 Ш :舞台 渡に 作 教 額された予算補正 踏まえ変更するものです。 ター 対憩い **%職員** 委託 弁取替による修繕料、 決 l劇 D V 演会開催 正 0 有 0 表 料、 いて。 の給湯ボイラー補給水用 、住宅の修繕料、 十五年度西都市一 財 取 (第六号) の家の洗濯 産 更につい 締役大木龍喜氏 ▽少年野球交流大会、 Dのダイジェスト版 0 地籍調査等 時 無償貸付及び の講師 について。 の主なものは、 機、▽福祉 ▽市民創 謝 ∇ 般会計 金等 Ó 和 無償に 地 で 域

補 西 予 正 都 算 $\mathop{\bigcirc}_{\Psi}$ 成二 委員長報告を参照く で 医 補 す。 師 正 会病院 十五 第 細 八号)について。 年 は、 - 度西 の清算に 次の文教厚生 都市 、ださ 伴う予算 般会計 旧



新しく建て替えられる妻南小 学校を調査する文教委員会

へ西 の都 援師 金会 三病 千院 **(D) \$** 万

ます。 を受け審査を行った文教厚生常任るための予算補正について、付託を、西都市西児湯医師会へ補助す う支援金三千二百三十五万八千円旧西都医師会病院への清算に伴 委員会の 審査概要につい て報告し

文教厚生常任 委員長報 番の 概 要

から、新法人発起人側が額」三千七百二万六千百 案は 円か 院が平成二十二年度末をもって閉行することに伴い、西都医師会病 助 万七千百五 院するにあたり生じた「債務超 委員 かる経費二百八十八万千百五.医師会病院外部調査委員会」 財 するも 八千三百円を差し引いた金 医師会病院外部調査委員会」にら、新法人発起人側が設置したら、新法人発起人側が設置した」三千七百二万六千百四十五円するにあたり生じた「債務超過するにあたり生じた「債務超過 団 千百五十円の合計四百六十六員会」にかかる経費百七十八、医師会が設置した「病院調 |西都児湯医 西 三会病院 (号)について。 |療センターへ移 西 から 師 でで。本 医 療法 +

八西 円市 を可児

会に提案されてから実に二年半も 十三年三月議会に 期間を要しました。 この への清算に伴う支援金」 支援金については、 旧 西都 が 一医 が 師 。 議 平 成

お、紙面の都合で項目のみを報概要について報告をしました。 します。 ら二年半もの期間を要したのか、 を行うに当たって、 病院の閉院、 そこで委員長報告では、 都合で項目のみを報告 清算に伴う公的支援 なぜ、 提案か 医 師 な

伴う公的支援が最初に議会に提案第一、医師会病院の閉院、清算に

旧西都医師会病院清算支援金の 算出根拠

債務超過額 37,026,145 円 医師会病院外部 調査委員会に係 $\triangle 2,881,150$ 円 る経費 病院調査委員会 ▲1,787,150 円 に係る経費 差引額 32,357,845 円



参考人質疑

(8月

解明へ 第三、 収入額 常任委員会における審査の経緯に第四、市長提案に対する文教厚生 \mathcal{O} 窓口請求額と収入額の差額 の差額問題の経緯について。医師会病院の窓口請求額と 経緯三点について。

第五、 ついて。 市長の判断「―公的支援に当たっする最終報告及び要望書に対する ては、旧西都医師会病院の閉院に伴 することが妥当である。」について。証に要した費用を除き、公的負担を って生じた債務超過額から調査検 の公的支援の提案と医師会の態穴、市長の判断に基づく医師会 旧 西都医師会病院会計に関

会としての 付託を受けた文教厚生常 文教厚生常 判断について。 任委員会が 判 任

29 日)

した。

1

カュ

何が間違い

する上

ました。 解を求めました。 公的支援に対する橋 旧 る立場から説明及び見解を求め公的支援への妥当性等を確認す 的支援に対する橋田市長の見西都医師会病院の閉院に伴う

委員会に出席して述べた見解 のとおりです。 な お、 橋田 市長が文教厚生常 は次 任

市長の見解 (全文)

ります。 公的 審議をお願いしているところであ 会定例会において三千二百三十五 万八千円の予算補正案を上程し、 旧 支援につきましては、今市 西 都医師会病院の閉院に伴う 議

対象となった関係帳は出された最終報告は、 断に当たっては、一 \mathcal{O} 「象となった関係帳簿 最終報告に至ったものと や未収金の集計に基づき、 された最終報告は、 回 \mathcal{O} 医師会に対する支援 般質問でも答 医師会から提 \mathcal{O} 調 詳 查 細な検 認 検 今回 識 証 0 判 0

.対する説明及び見解を求めま.を確認するため経緯及び提案.が間違いで何が真実だったの で行ったことは次の三点 め三千二百三十五万八千円の公的裏付けを持った内容として受け止 今回提出された調査結果について に入れ、かつ慎 また医師会との円滑な関 りま 医師会としての詳細な調査と は、これらを総合的に

重に検討した結果、

係を考慮 は勘案し

受けて参りました。 者検討委員会による諮問・ まで二年半以上にわたり、 \mathcal{O} による調査や論議が重ねられ、そ 支援を判断いたしました。 間、 窓口差額問題が指摘され、 本市においても二回の第三 答申を 関係者 現在

念であります。 師会との見解等の相違により、 決に至らなかったことは非常に 報告が十分でなかったことや、 しかし、外部調査委員会の 調 解医 査 残

方々に迷惑をかけたことは大変遺円滑に推進していく上で、住民の 憾に思っております。 また、一連の 状況が地 域 医 療を

5 お作の 同 事 本市としては公的支援 慎重に検討して参りましたが、 務局として関わってきた検証 て迅速な対応が十分ではなく その結果を踏まえた判断に 本市が第三者検討委員会 0 親点か

> とをお詫び申し上げます。 果的 問問 題 の解決を遅らせたこ

と思います。 らなるご協力とご支援を賜りたい とは十分ご理解していただき、さ う所存であり、 対しては誠意ある支援や対応を行 に認識しながら、今後も医師会に でもありません。そのことを十分 中心的な組織であることは言うま 都児湯の地域医療を支えていく 医師会は、 救急医療をはじ 医師会にもそのこ 以上。

文教委員会では全会一 致で 可

行い、 した。 委員からの賛成討論の後、 見解を受け審査を終了し、二人の 文教厚生常任委員会は、 委員全員の賛成で可決しま 採決を 市長 \mathcal{O}

れることを心から願 関係改善、 りました。 域医療を守るためにも行政と医師 く回復されること、 市西児湯医師会の名誉が一日も早 ました。また旧医師会病院と西都 統一した意見として、 最後に、文教厚生常任委員 医師会への支援対策を要望し 医療センターの関係が改善さ 信頼回復を図るために 救急医療、 い報告を終わ 医師会との 会の 地

総務常任委員 会

を報告します。 会に付 て、 定 例 その 会に 託された議案及び陳情 お 1 て、 の経過と結 総務常 果 任

いて」、議案第八日設備整備工事請名 市消防について る委員 り 可 いずれも別段異議なく、 第八十九号「平成二十五年度西都 償譲渡について」、 都 議案第八十号「平成二十五年度西 徴収条例等の ついて」の六件の議案については、 入金に係る督促手数料 「財産の無償貸付について」、 市一 まず、 般会計予算補正 決すべきものと決しました。 全会一致をもって原案のとお かけて台湾との国際交流 より 本部 て、 般会計予算補 議案第八十六号「財 議案第七十七 わる予算が計上されて 消 その結果九 査の過程において、 今回、 議案第八 防救急デジタル無線 負契約の締結につ 議案第八十七号 兀 改正につい 十四 日 台湾との国際 正 (第七号)に 月二十三日區際交流調査 上されてい 及 (第六号) 採決の結 [号 [西都 び 産の無 延滞 税 議案 て」、 外 あ 金 収

> して台 であ から二 応をお願いしたい」との 望がありました。 を十分取っていただき、 玉 際 交流 れると ると思うの + から を 兀 日に 継 のことであ 続的に いかけて で、 勢四 関 行うチャンス + -名を受 教育旅 係 意見・ 万全な対 課 の連 げ 行

る不安・ 師不足などによる救急医療に対すは、西都・児湯医療センターの医慎重に審査を行いました。本陳情 の趣旨について説明を求めるなど出者を参考人として招致し、陳情情について」については、陳情提 を図 て、担当職員を増員し組織の拡充対応を図るための環境整備に向け 意は、 織拡 療セ ました。 次に、 のと決しました。 全会一 充及び ンターに関連する西都市に、陳情第二号「西都 児 って欲しいというも そ から提出されたも 採決 \mathcal{O} 医師 致をもつ 職 \mathcal{O} 員の増員に関 結果、 確保などに早急な 7 別段異 採 のであ 択 \mathcal{O} で、 はする陳 す × 議 0 湯 き 願 な り

疑 五. (第 \mathcal{O} 年 ま 八号) た、 - 度西 議案第百二号 都 について」は、 る委員より 市一 般会計 今 予算補 平 成二 回 種 1々質 \mathcal{O} 補 正

> 長年の 委員 職 援につい か正 百七十万円の に 務代理者が かる ついては、 会 懸案事 西 旧 から指摘の ての 不明金問 西 西 児 [都医師会病院 会病 医 題に絡 師 会 0 この件 閉 へ の 院 支 0

要 携 組医 表には と判 であ 十万円 であるが、 1 五 第三者検討委員会から、 |年三月四日付けで「外 ŋ, 断できる」との 都医 0 その 後、

求であることから実体のないもの円については、高額療養費分の請 調査委員会が指摘した約千七百七 十五年八月二十二日付けで「外部に西都市西児湯医師会から平成二 容は妥当性を欠いたものであった 収入額との差額のうち約千六百万 員会が指摘した窓口請求額と窓口 \mathcal{O} 金を決定したものである。 たところ差額は存在しない」との 報告等 過剰な請求額が計上されて 入院台帳などを基に調 から 根拠とするレセコン日計 外部調査委員会の報告内 [児湯医師会から平成二 師会病院会計に関 勘案すると、 項となっていたもの 設置した『外部調査 この 答申を、 市が設置した あった約千七 たび 部調 平成二十 当 支援 いする 査し さら 查委 み、 初

> なも 摘され だきたい」との賛成討論がなされ 救急医療が充実するよう、 ら賛成したい。またこれ にはどうしても必要であることか 師会も承諾され 内容については、 と考えられ、 改善を図 医師会・ は 長年の懸案事項を解 のであ た不明金問 1り協力関係を保っていた 医療センター三者の関係 支援に さらに今回 ており、 西都 題は ついては妥当 存在 決するため 市 この支援 を契機に 西児湯医 行政 [の支援 しな

原案のとおり可 しました。 採決の結 果、 `決すべきものと決 全会一 致をも って

ました。

産業建 設常任 委員会

五年度 ける河川 第七十八号 常任委員会に付託されました議 ついて」、 る基準を定める条例の :予算補| (第六号) 「平成二十五年度西都市一 期定例会にお 西 管理施設等の 正 議案第八十号 都 について」、議 「西都市準用 市一般会計予 (第七号) て、 に 一部改正に 構造に関 産業建 案第八九 河川に設 0 算 般会 補 て、 正 す 案

い 以上四件の議案につきましては、 金 Ł ずれも別段異議なく、 の処分について」でありますが 市 と決しました。 全会一致をもって可 水道事業会計 十号 「平成二十四 未処分利益 採決の結 決すべき 年 剰余 度 西

おり、業務量が多大のため臨時職は職員二名体制で業務に当たって員より「現在、地籍調査において プト、 本市 んでいただきたい」。また、に踏まえ、官民一体となり ることが望まれている。 に協議を重ね、 商工会議 建設場所のみならず施設のコンセ る一大プロジェクトであるので、 る『食創生都市』のシンボルとな 拠点整備については、 程において、 にも出 な するまでに 地の境界等のトラブル 一名を雇用するとのことである。 の地 お、 比較調査も行 迷しており、 運営体制など、JA西都や 籍調査 議案第八十号の 来るだけ地籍調 所等の関係 官民一体となり取り組 相当の ある委員より「食 の進捗率は十一% 意見・意向を十分 時間を要する。 地 寸 本市 籍調査が完 体とも慎重 解消 審 近隣市 査を進 職 ある委 員又は が掲げ 査 一の過 \mathcal{O} 0 \otimes

> る」との意見・要望がありました。 に 臨 い努め 時 職 員を増員して進捗率アップ られることを強く要望す



(三財)を視察

口蹄疫埋却地再生整備工事箇

厧

西都• び職員の増員に関する陳情 連する西都市 児湯医療センター の組織 拡充 に 及 . 関

I都市 情

査 結 第十二区区長 妻地区区長会 安藝 國宏 他 名

地方税 する意見書 財源 の 充 実確保に 関

ビスやまちづくりを安定的に行う する意見書 ため、地方税財源の充実確保に関 基礎自治体である市 が、 住民 イ サ ー

(提出先

臣・内閣官房長官・内閣府特命担内閣総理大臣・財務大臣・総務大 大臣(経済財政政策)

暖化 森林 対 吸 策に 収源対 のための意見 関 でする地 策及 び 方 地 球 の

求めるため意見書 じて譲与する仕組みの構築を強く る税収の一定割合を森林面積に応 (提出先) 「石油石炭税の税率の特例」 によ

理大臣・財務大臣・総務大臣・農衆議院議長・参議院議長・内閣総 林水産大臣・ 衆議院議長・ 環境大臣· 経済産業

編集後記

今 回 九 う場であります。 も重大な関心と期待がもたれる大事 されました。一般質問 な議員活動の場であるとともに、 地域医療などについて一般質問がな 政策や執行状況について議論を行 は、 月二日から九月議会が. 七名の議員が農業や教育 は、 が始ま 住民から 市

聴をされ、質問議員も市当局も緊張 かと思います。 を中心とした約六十名の方が議会傍 直剣な気持ちになったのではな そのような中で、 十一日に区 長会

くの市 だけるようお願 ければならないと考えています。 れ関心を持たれる議会にしていかな 私たちは市民の皆さんから期 民の皆さんが傍聴に来てい いします。 待さ 多

議会報編集委員会

多 長 員 長 中吉北兼橋恒太 口吉田 登志. 博郎男郎憲文

委副委

岡松 和四道 勝 夫州近

IJ

IJ